

法律科目試験問題（刑法） 配点 50 点

次の【事例】を読んで、甲・乙の罪責について論じなさい。（特別法違反の点を除く。）

【事例】

1. 甲（女性・21 歳）は、定職につかず遊んでいたが、某月某日午後 10 時頃道を歩いていると、不良仲間の乙（男性・25 歳）が甲を驚かそうと急にマンションの影から飛び出してきた。甲は、見知らぬ暴漢が襲い掛かってきたものと思い込み、身を守るため、持っていたバッグを乙に向かって投げつけた。

しかし、手元が狂いバッグは乙に当たらず、たまたま通りかかった顔見知りの会社員 B（女性・23 歳）の頭部に命中した。B は弾みで路上に倒れ、後頭部を強打したため、頭部打撲による全治 1 週間の傷害を負った。

2. 甲と乙は、路上に倒れ、ぐったりしてかすかに呻いている B を見て、「何やっているんだよ。」「あんたが私を驚かすから、こんなことになるのよ。」などと責任を押し付けあっていたが、2 人とも以前から B と仲が悪く悪感情を持っていたため、この際さらに痛めつけてやろうと意思を通じ、2 人で交互に倒れている B を足蹴にしたため、B はさらに全治 3 週間の重傷を負い、気を失ったように動かなくなった。

3. 甲と乙は、B が気絶したものと思い込んだが、完全に抵抗力を失った B をなおも 2 人で蹴り続けた。その間、乙がふと下を見ると、地面に B のハンドバッグが落ちているのが目に留まり、金に困っていた乙は、B のハンドバッグから 3 万円を抜き取って自分の服のポケットに入れた。その際、甲は乙の行動に全く気づいていなかった。

4. 甲と乙は、B をその場に放置し、逃走した。ただし、B は恐怖と苦痛のあまり気絶した振りをしていただけで、実際に失神していたわけではなかった。